

新春 おめでとうございます

新春 2022 を迎え、卓球愛好家のみなさんとともにアスリートが魅せる限りない可能性を讃（たた）え合いたいと思います。

夢追うアスリートたちが、2021 コロナ禍の中、未来への扉を開く Tokyo2020 オリンピック・パラリンピックで大輪の花を咲かせてくれました。

なんといっても、自然な姿をみせてくれたスノーボードの選手たち。国と国との国民的熱狂を越えて、『人と人とのたたえ合い』感動を形してくれました。

そして、『多様性』を象徴する男女混合の車いすラグビー。違う特性をもった人々の境界が一段と溶け合い強さを生みます。多様性を尊重することが、回り回って誰もがくらしやすい社会に近づくことを実感させてくれます。

さらに、パラリンピックのテーマに加えられた『レジリエンス』、逆境から立ち直る力。

バタフライの木村敬一選手（「闇を泳ぐ」／視力障害）が見事に、レジリエンスを結晶してくれました。

中でも胸躍るわれらが卓球の金銀銅。

精神的側面だけでなく、アスリート競技の『科学的側面』に知恵と労力を注ぎ金銀銅。

日本経済新聞も力を込めて、この科学的側面への努力をたたえてくれました。（日本経済新聞 2021/11/19 夕刊 卓球王国をめざして③ ラリーのすべてを「見える化」 研究先駆け、盤石のサポート）

オリパラに続いて 2021 の華は、大谷翔平選手。

絶賛の大輪を咲かせましたが、そのベースは『謙虚さ』。

謙虚さと言えば、ノーベル賞受賞の山中伸弥氏が変わらぬ謙虚な姿勢をたたえる藤井聰太棋士（将棋界のアスリート）。

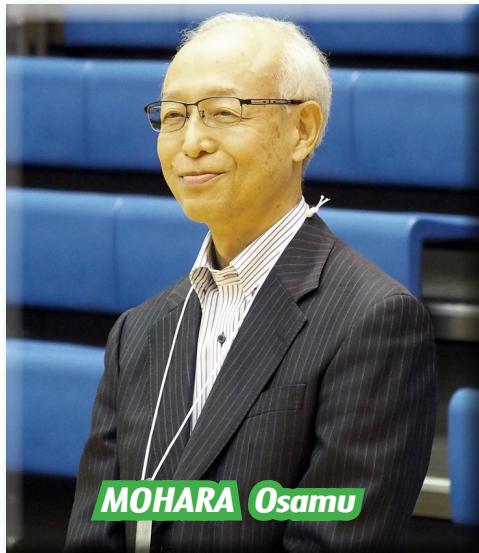
藤井棋士の座右の銘は、限界はなしという意味の「無極」。

謙虚さをベースに、二人は「だれもまだ見たことのない世界」をくり広げてくれます。

彼ら彼女ら一流のアスリートが魅せてくれるものは『自分らしさ』！

自分らしくさえあればクリエイティブに生きられる！
やわらかく開かれた自分自身に戻れば、可能性は「無極」に広がる！

さあ、卓球愛好家のみなさん、ことしも、『謙虚さ』をベースに『科学的側面』を駆使して『自分らしさ』に磨きをかけ、『多様性』で互いにたたえ合い、『レジリエンス』で限界を越えていきましょう！



和歌山県卓球協会

会長 茂原 治